

日本薬学会・韓国薬学会合同シンポジウム：薬物誘発性肝障害の機序、評価、予測、診断  
PSJ-PSK Joint Symposium: The mechanism, evaluation, prediction and diagnosis of drug-induced liver injury

吉成 浩一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>静岡県大薬

肝臓は化学物質による毒性の主要な標的臓器であり、薬物誘発性肝障害は医薬品の開発および販売中止の主要な原因である。そのため、非臨床及び臨床試験段階において薬物誘発性肝障害の評価・予測可能な試験系の開発やバイオマーカーの同定が、化学物質からの生体防御、効率的な医薬品開発ならびに医薬品の副作用発現防止のために求められている。これら評価系開発やバイオマーカー探索には、薬物誘発性肝障害の詳細な発現機序の解明が必要である。本日韓合同シンポジウムでは、日本薬学会及び韓国薬学会の研究者から、薬物誘発性肝障害の発症機序解明、評価系開発ならびにバイオマーカー探索に関する最新の研究成果を紹介する。

薬物応答性の核内受容体は、薬物代謝酵素の発現調節やエネルギー代謝、脂質恒常性維持などさまざまな肝機能に深く関わっている。そこでまず、薬物による核内受容体や関連するシグナルの活性化と薬物誘発性肝障害の発症に関して紹介する。また、シトクロム P450 等による反応性代謝物の生成が薬物誘発性肝障害の発症に重要であることが知られている。そこで次にこれら代謝活性化と肝毒性の評価系について紹介する。最後に、近年注目されている microRNA について、新たな治療標的及びバイオマーカーとしての可能性を紹介する。